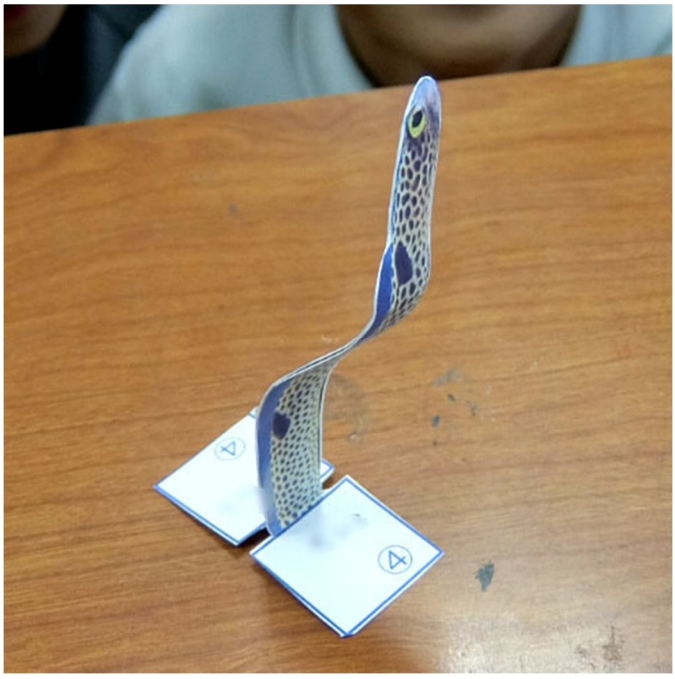
「日々の理科」（第 995 号） 2017（H29),-3,28

「チンアナゴの模型づくり（３）」

お茶の水女子大学附属小学校　田中 千尋

一生懸命に作ってできあがった「チンアナゴ」と「ニシキアナゴ」そのまま飾っても楽しいのだが、ちょっと工夫すると、より本物に近い雰囲気になる。



こうして体を曲がりくねらせると、何となく本物の動きに近くなる。この方法は大流行していた。貼り合わせた画用紙は、のりが乾くとかなり硬くなり、少し曲げにくくなるの。しかし、まだのりが乾かないうちに曲げておくと、のりが乾いたあと、曲げた形のまま固まって、なかなか具合が良い。

私は、昔の給食のお皿に、砂（100 円ショップで売っている水槽用の砂）を入れて、いくつか用意しておいた。最初は左下の写真のように、砂の上に立てて試してみるだけだったので、雰囲気は今一つ・・・。

しかし、台座を砂にもぐらせて立てると、かなりリアルな雰囲気になってきた。この方法も大流行で、大騒ぎになってしまった。

これは、いくら何でも人口密度（いやアナゴ密度）が高すぎる。実際に水族館でチンアナゴを観察すると、個体同士は適当な感覚を保っていて、これほど密集することはまずない。

完成したチンアナゴは、家に「連れて帰る」わけだが、使っていない飼育ケースや、大きめのコップに砂を入れて、同じように試すと面白いだろう。